６８号
２０２４年
４月

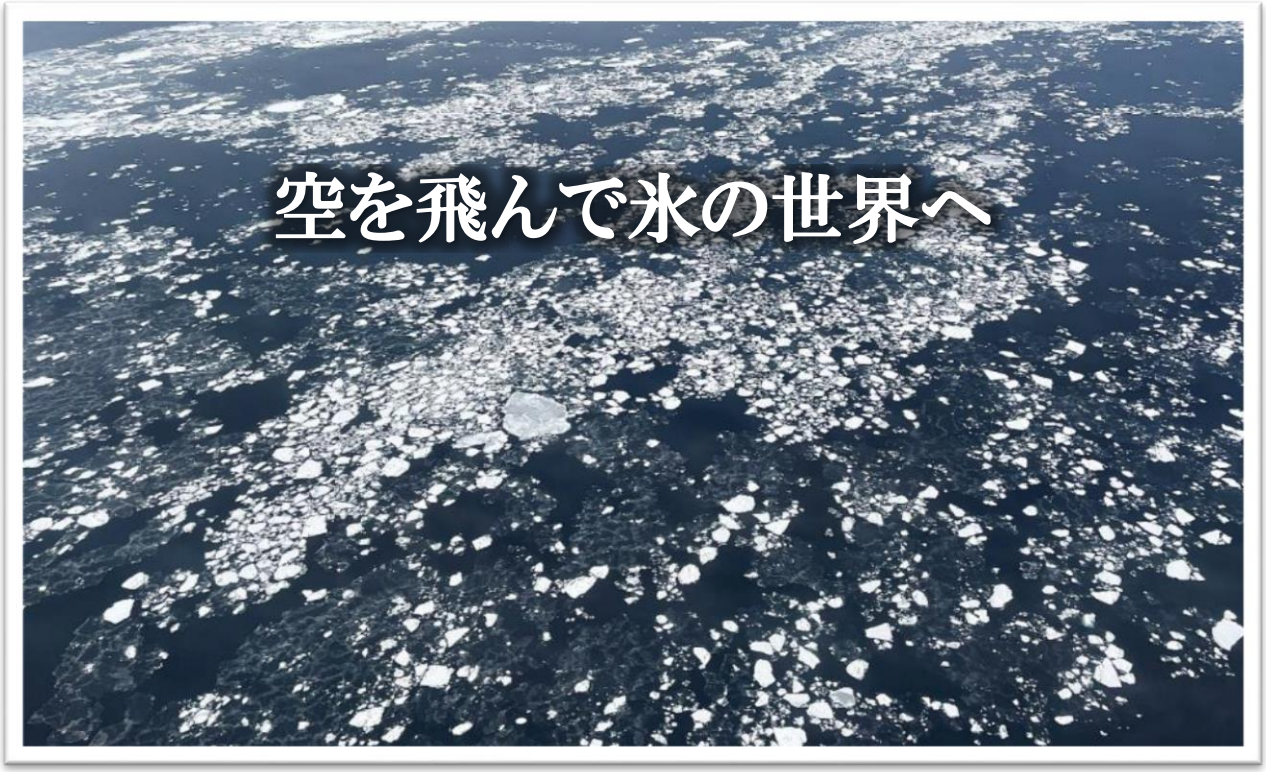
赤れんが通信

流氷

JET スポットライト：デビナ・タン（北見市 ALT）

www.pref.hokkaido.lg.jp

赤れんが通信（英語版）は、北海道庁国際課の国際交流員ヘンリクソン・アルミが執筆しています。



今回の赤れんが通信は、北海道の冬がようやく春に負け、久しぶりに厚い氷の層ではなく舗装の上を歩くことが出来る時期に発行されます。それでも、2 月に経験した冬の冒険について語りたいと思います。

爽やかな土曜日の朝、私の旅は札幌の丘珠空港から始まりました。これまで道内の飛行機に乗ったことがなく、初めてこの小さい空港を訪れました。大きくて賑やかな新千歳空港に比べると、眠くなるような静かな場所でした。韓国国際交流員の金さんと合流し、北海道北東部へ向かう飛行機に乗りました。

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html

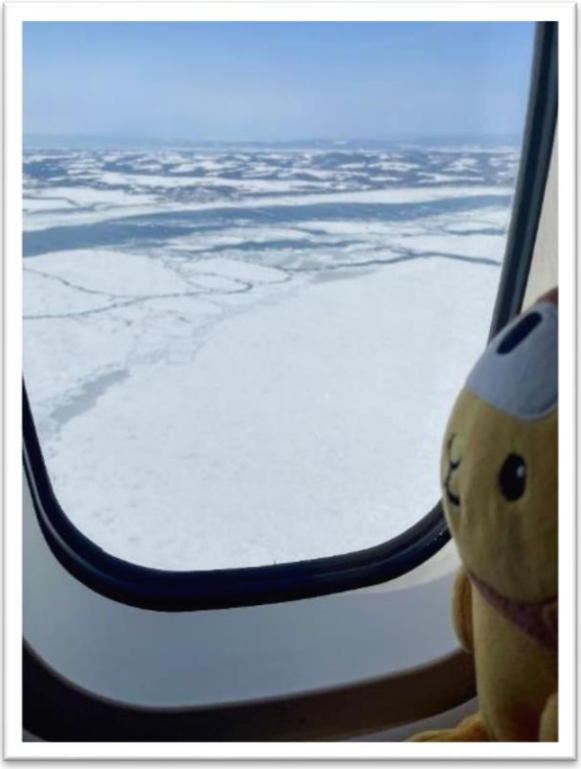
Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Armi Henriksson)
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303

▲　冬の北海道

小さな飛行機は、まるで大きな猫のように、滑走路から飛び出していきました。凍った北海道の上空を飛行しながら眼下に白い平原や葉のない木々の、母なる大自然の肌に無精ひげを生やしたようなモノクロームの風景が広がっていました。約 45 分後、私たちは女満別空港に着陸し、すぐにチャーター便に乗り換えました。チャーター便の目的地は同じ女満別でも、特に景色の良いルートを通る予定でした。

網走湖を渡り、やがてオホーツク海の上を飛んでいました。しかし、今回の海の様子は、どこにでもある海とは違いました。北の亜寒帯の海域から流れてきた氷で覆われていたのです。オホーツク地方が誇るこの流氷こそ、私たちがこのときチャーター便に乗った理由です。

流氷を見るツアーに参加できると聞いたとき、興味津々と同時に半信半疑でした。冬に海が凍るのが当たり前のことであるフィンランド出身の私には、北海道の流氷に心躍らせる人たちの気持ちがあまり理解できませんでした。「流氷」といっても、ただの氷でしょう？



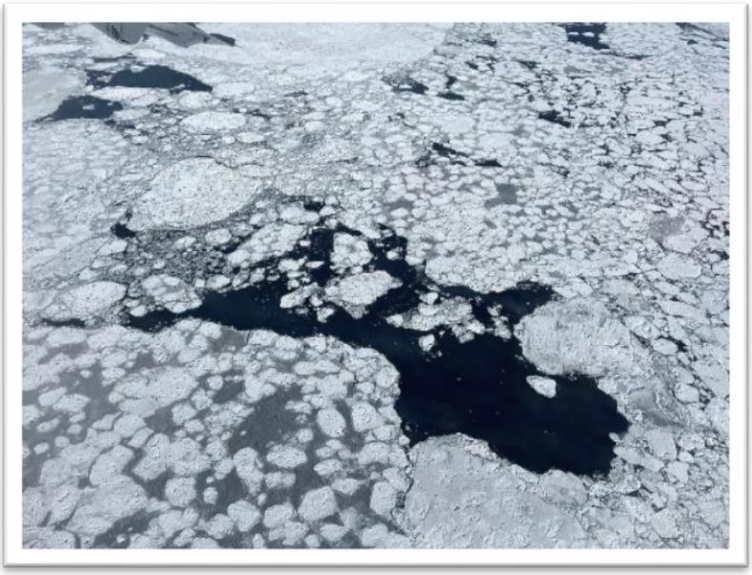
▲　風景を楽しんでいるキュンちゃん
（北海道観光 PR キャラクター）

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Armi Henriksson)
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303

しかし、眼下の氷と海水のパッチワークを見下ろしていると、流氷の美しさが見えてきました。まるで魅惑的な模様が描かれた現代美術を観ているような気分になりました。空は青く澄んでいましたが、海はほとんど黒に見えるほど濃い紺色で、白い氷とのコントラストが印象的でした。道中通り過ぎた野原と湖には、滑らかな雪のベールがかかっていましたが、氷が融合してひとつの大きなエリアになったところは、また異なる印象でした。表面は畝やクレーターのような凸凹があり、長く見れば見るほど、この風景がまったく別の惑星のもののように感じました。

飛行機は知床半島の先まで低空飛行を続けた後、網走市内に向けて引き返しました。知床は熊の生息地として有名なので、熊にとっては冬眠の季節だと分かっていながらも、もしかすると見えるのではないかと半ば期待し、外を覗いていました。熊の代わりに私の目を引いたのは、別の大型哺乳類の紛れもない気配——波紋の中心から立ち上がった、一筋の蒸気の柱でした。クジラ！息継ぎをしに上がってきた、その子の姿は見えませんでしたが、この地域でよく見られるシャチだった可能性が高いです。



All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Armi Henriksson)
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303

▲　オホーツク流氷館でいただいた
青い塩がのったソフトクリーム

約 40 分間オホーツクの景色を眺めた後、地上に戻りました。金さんと私は札幌への帰りの飛行機までまだ時間があったので、航空会社の親切な方々にオホーツク流氷館に連れて行ってもらい、網走市内のお店で美味しいお寿司のランチをいただきました。

▲　私たちが乗ったチャーター便

北海道の各地への移動は、最速の電車でも数時間かかるのが普通ですが、道内便を初めて経験した今では北海道がずっと小さく感じられました。札幌から北海道の端まで来て、観光して、戻って、すべて通常の勤務時間内にできました。

流氷鑑賞のチャーター便は、北海道の冬の魅力を体験できる新たな企画です。今年はまだテスト段階でしたが、次の流氷がやってきたら、その美しさを空から眺める選択肢があるかもしれません。それまでは、他の季節にも見どころはたくさんあります！

流氷やその他のオホーツク地方の魅力については、北海道観光振興機構のエリアガイド「道東」をご覧ください：
https://www.visit-hokkaido.jp/feature/doutou

来年の流氷鑑賞ツアーは未定ですが、
お知らせは網走観光協会のページにて：
https://visit-abashiri.jp/

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Armi Henriksson)
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303

北海道 JET スポットライト

北海道には３００人以上の JET プログラム参加者（外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員）がいます。赤れんが通信では、こうした様々な国々からやって来た皆さんのストーリーを伝えていきます。今回は、オホーツク地方の北見市在住の外国語指導助手（ALT）を紹介します。

MEET DEVINA TAN

▲　サンゴ草が赤くなる秋の能取湖

簡単な自己紹介をお願いします。

北見市の一部である常呂町在住の JET プログラム３年目のデビナ・タンです。「ガーデン・シティ」とも呼ばれるシンガポールから来ました。シンガポールは東南アジアに位置する島国で、赤道にとても近いため、年中熱帯気候です。私は家にいることが好きなので、暇な時は編み物をしたり、料理をしたり、植物を育てたりします。しかし、ここ１年は、北海道道の駅スタンプラリーを完成しようとしていて、北海道を回りながら料理の実験に使える面白い食材を見つけたりもします。

JET プログラムで日本へ来たきっかけは何でしょうか？

四季のある国で生活することは子供の頃からの夢で、住んでみたい国のトップに日本がありました。シンガポールで英語を第二言語として教えていたとき、同僚に「JET プログラムに申し込んでみたら」と言われました。応募したのは 2019 年で、選ばれたのは 2020 年でしたが、新型コロナが発生したため、結局 2021 年の９月に来日しました。ここに来るまでに長い時間がかかりましたが、北海道のことがこれほど好きになるとは想像もしていませんでした。

JET 参加者としてどんな仕事をされていますか？

私は常呂町の ALT です。小学校３校、中学校１校、高校１校の計５校で教えています。シンガポールでも英語を教えていたので、ALT としての仕事はすぐに慣れました。毎週 10～15 人の教員同士と協力し、生徒たちが楽しく英語を学べる授業のためにアクティビティを作っています。

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Armi Henriksson)
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303

デビナさんが経験した日本と自国の違いや共通点は何でしょうか？

シンガポールは文化のるつぼであるため、私たちは人種や宗教に関係なく、文化の違いを認めながら育ちます。その影響はシンガポールの料理、建築、日常生活にも見られます。一方、日本はまだ割と単一的な社会で、伝統的な文化が豊かです。両国の違い、時には共通点を見つけることは興味深いです。

日本に四季があることにとても感謝しています。春は庭いじりや花見、夏は北海道巡りや果実狩り、冬はこたつの中に潜り込むなど、自分の活動を自然に季節に合わせることが多いです。

これまでの北海道生活で印象に残っているエピソードを一つ聞かせてください！

たくさんありすぎて、一つだけ選ぶのは大変です！一番印象に残っているのは、娘と一緒にトマムに旅行した最初の冬かな。アイスヴィレッジを訪れ、氷のドームで飲み物を飲んだり、花火を観たり、冬に乗馬したり、スノーモービルに乗ってみたり、そしてティピーの中のたき火でバウムクーヘンを作ったりもしました。人生に一度しかないような経験で、多くの初体験ができたことで娘との絆を深めることができました。

▲　トマムのアイスヴィレッジ

北見市、またはオホーツク地方の好きなところは何でしょうか？

常呂町のホタテは最高です！街中の飲食店でぜひ試してみてください。生でも、バターで焼いても、ニンニクと炒めても、カレーにしても召し上がれます。本当に美味しいです！

他にこの地域で気に入っているのは、冬に網走市で開催される、地元の人々が作ったたくさんの氷像を楽しめる流氷まつりです。また、能取湖で見られるサンゴ草の紅葉もおすすめです。9月になると、湖が赤色の海のようになります。

▲　常呂町にある「松寿し」のホタテいくら丼

※ 北見市は、常呂町、端野町、留辺蘂町を含みます。

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Armi Henriksson)
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303